



(上)99年式 G500ロング ジルコングリーン 走行2.8万km 価格655万円。(下)03年式 AMG G55ロング アラバスターホワイト 走行2.9万km 価格911万円。TrueでGクラスを購入すると、納車の際に1時間ほどの講習を受けてもらう決まりになっているそうだ。エンジンのかけ方から、各スイッチの押し方/ボンネットの開め方/運転のコツ/洗車方法まで、スタッフがGクラスの“いろは”をレクチャーしてくれる。  
取材協力=True Tel.03-3482-0055

## まだ流行を追っているんですか？ あなたの輸入車ライフとは流行を追う事ですか？

メルセデスの超人気モデル、Gクラス。高騰していた相場もずいぶん落ち着き、買いやすくなってきている。ただし、流通量は相変わらず非常に少ない。特に程度のいいG500となると中古車探しは難航を極めるだろう。でも、あるところにはあるんです。



アメリカ人がSUVという言葉を作る遙か昔の79年に軍用車として生を受けたGクラス。都会に暮らす人が快適にクルージングするために作られたクルマではない。戦地で使うことも想定していたわけだから、加速力や快適性より頑丈さや機性能性が最優先となっている。空気抵抗のことなどまるで考えられていないボディのデザインもそうである。

そんなSUVの概念からも外れてしまう硬派なクルマが、なぜ、登場から四半世紀たったいまも生産され続けているのか。そう、売れるから、つまり需要があるからである。飾り気のない武骨なフロントグリルとそこに輝くスリーポインテッ

ド・スター、この組み合わせが現代の都会に暮らす人に受けたのだ。究極のハズシ技である。希少性も人気を高めるのに一役買ったはずだ。そして、いまも需要が供給を上回る状況が続いている。コンディションのいい個体が減っているため、中古車探しの難易度がかなり高いモデルであることに間違いはない。

こういう特別なクルマを探す場合は、基本的に戻るのが確実な方法となる。クルマというより信頼できる専門店を探すことが、結局は成功への近道になるのである。この頁で取り上げるのはストック車両のクオリティに定評のあるTrue。

Gクラスの販売実績450台以上を誇るまさにGクラスのプロフェッショナルと言える専門店だ。

### イチ押しは 98～00年モデルのG500

「最もお勧めできるのは、98～00年モデルですね。この年代のG500は壊れないハンドルも比較的軽いです。乗り心地もけっこういいですよ。また、特有のアナログ感もいい味を出しています。次に03～05年モデル。メカニズムの電子制御化が進み、味わいは薄まりましたけれど許せる範囲だと思います」と、話してくれるのは同店

の上島 哲 社長だ。彼は、01～02年モデルは避けたほうが良いとも言っている。乗用車テイストを取り入れながらコストダウンを図るため、内装にCクラスのパーツを流用してしまっているし、足まわりも安っぽくなって乗り心地があまりにも辛いレベルに達してしまったというのだ。さらに、中途半端な電子制御化が災いして故障も多いらしい。

「Gクラスを選ぶ方はこのクルマにしかない個性を求めているのです。乗り込むとCクラスと同じパーツが使われていたら興奮してしまうのも当然でしょう」

### 新車より中古車が安心

上島社長は、Gクラス選びの鉄則も教えてくれた。狙っている方には貴重な情報となるだろう。

「Gクラスは高速道路でまっすぐ走らないし、ある速度に達するとステアリングがブレると思っ

ちで組み立てられる少量生産モデルですから、個体差が激しいということ覚えておいてください。つまり、いい加減に作られたものも少なくないわけです。でも、しっかり作られた個体もあります。新車を買うとき、ボディを外してフレームまで確認する方はいないですよ。だから、Gクラスの新車を買うことは博打といっしょなのです。専門店はその辺りに乗って確かめて厳選していますので、中古車のほうが安心して乗れるんですよ。ディーラー車か並行車かを気にする必要もないでしょう。またG320は、パワーユニットが非力でトランスミッションなどに負担がかかるため、故障も多く、快適性に劣っています。G500にしておいたほうがいいですよ」

中古車価格のことも触れておこう。Trueの場合、98～00年のG500ロングが500～700万円、03～05年のG500ロングで600～900万円が目安になるそうだ。意外と買いやすい価格帯

である。上島社長は、「Gクラスに憧れていても乗りたいというお客様を大切にしています。予算の相談は最後までいいですよ」と笑う。「スタッフが1台1台入念に仕上げた車両ばかりです。大切に乘っていただける方にキーをお渡ししたいのです。Gクラスは、流行を追いかける人のためのクルマではありません」

つまり、メンテナンスを施しながら、日常の足として10～20年使ってこそ味の出るクルマということなのだろう。少なくともステイタスシンボルではない。プロ意識の強いTrueのような専門店は、Gクラスのある生活をグッと引き寄せ

てくれるはずだ。

Text:野田義彦/Photo:丸山博人

True 東京都世田谷区千歳台3-6-1 Tel.03-3482-0055

True Perfect Car Care



True 東京都世田谷区千歳台3-6-1 Tel.03-3482-0055